

脳卒中

チーム医療でリハビリ

脳卒中の手術後、早い段階からのリハビリで身体機能の回復に努める荒木脳神経外科病院(広島市西区)。荒木攻理事長に、治療法や予防法を聞いた。(長尾尚実)

病院の 実力

広島編 61

当院に救急搬送される患者は年間2000人ほどいるが、その半数程度が脳卒中。当院では患者が退院後も術前と同様の生活を送ることができ、生活の質を保

ち続けられるよう、術後の身体機能の回復にも重きを置いていきます。

そのため、可能な限り術後約1日半以内にリハビリを始めるようにしています。まずは、ベッド上で少しずつ手足を動かすなどし、関節の動きが悪くなることを防止。その後、脳神経外科医や理学、作業療法士、言語聴覚士らがチームを組み、患者ごとのリハビリ

荒木脳神経外科病院 荒木 攻理事長に聞く



脳卒中の症状や治療法を説明する荒木理事長(広島市西区の荒木脳神経外科病院で)

リ内容を決めていきます。チーム医療には2010

年頃から取り組み始め、退院するまでの期間も早まり

ました。同年当時の平均在院日数は24日間でしたが、昨年は20・4日となっています。

脳卒中の予防には、日常生活で注意できるポイントがあります。脳卒中の遠因に高血圧があることは知られるようになっており、減塩の食事を心がけると良いでしょう。喫煙や過度の飲酒は控えてください。

心房細動など心臓に持病がある人は、心房内の血液がよどみ血栓ができやすくなるので、より注意が必要です。また、くも膜下出血の場合、脳ドックのMRI検査で動脈の瘤が見つかるケースもあります。40歳を過ぎたら、定期的な検査を受けることを勧めます。

被爆証言 高校生が記録

オ

資料が少ないのか」「つら

下の4時間後に撮られたものではないか」などと自説を披露した。

原爆投下の目標都市が選ばれた経緯や、投下訓練用に使われた模擬原爆「パン

プキン」などについても解説。工藤教授は「あれから68年近くなる今も、分からないことがたくさんある。実証的調査を加速させた」と締めくくった。